

無政府主義問答

(一)

問 私は一刻もじつとしてはいたくない。最早やそういう時代ではないという気がする。だが、何をしたらよいか。急いで知らせしてほしい。

答 急いで？ 私はあなたを知らないし、あなたがどんな思想をもっていられるかさえも分らない。それに私には第一知らせるなどという力はない。あなたの私に対するそうした期待は間違っている。そんな期待は何処からきたものか、急ぐ前に一まず静かに……。

問 いやだ、静かになんて、そんなことは私の性分にあわない。第一時代はもうそういうことを要求しないのだ。我々は馬車馬のように進めばいい。斃れたらそれまでだ。

答 そうはつきり覚悟がきまつていれば何もいうほどのことはないではないか。あなた

は馬車馬のように進むがいい。だが、それにもかかわらず私の答えを必要となさるのは、やはり他人の意見をきくことによつて少しでも正しい進み方をしたいと思われるからだろうと思う。思想も何も要らない、ボルもアナもない、ただ実行だ、実行だ、というように考える人があるが、いざ実行となると、第一に突きあたることがつまり、どれが正しいかという問題なのだ。思想的の問題なのだ。

問 なるほどね。でも思想なんてこと何だかむずかしい気がするわ。それには沢山書物を読んだり、考えたりしなければならぬでしょ。そんなこと面倒くさいわ。それよりかとにかく私はいま一刻もじつとしていたくないのです。社会のため、同志のための運動をしたいのです。あなたはそれをただ言ってくればいいわ。

答 そんなことむしろ私の方からあなたに教えてもらいたいくらいだ。だが強いて言えというなら今ここに仕事有三つある。一つは、あなたはあなたの周囲に一人でも多くの同志をこしらえる。そしてそれらの同志達とパンフレットを出すとか、研究会をひらくとかして、つまり内に対しては同志とかく結び、外に対しては熱心に宣伝の仕事をするのだ。また他の一つは、あなたは農村に帰るなり、工場に入るなりする。そしてそこでも同じように同志を作つて種々の組合を組織するのだ。他のもう一つは、あなたはあなたのいる場所でああなたの最も有能な方法で仕事をする。あなたが家庭婦人であれば消費組合の運動をはじめるとか、あなたがブルジョアの子であれば同志達に寄付金を送るとか、あなたにそ

の気さえあれば、これらの仕事については、またあとでゆつくりお互いに話しましょう。

問 何だかむずかしいそんな仕事ばかりね。その中で今のわたしにやれそんなことは、同志をこしらえて研究会をひらくことだけれど、それも何だか面倒くさいような気がする。

答 要するにあなたが実行実行といっている気持は——私は敢えていうが——一種のヒスなんだ。ヒスでは何ごともしやれはしない。実行というものは何の実行でも面倒くさいものだ。忍耐ということを私はよくいうが、つまりわら火のように燃え上つて直ぐ消えるような力のない実行欲ではだめだ。あなたはさつき思想なんか面倒くさいと言い、いままた実行なんか面倒くさいという。だが、ほんとうに虐げられている者ならば、どうしたら我々は解放されるか、我々の社会は救われるか、考えずにはいられぬだろう。どんなに面倒くさくてもその実行のための一つの仕事を持たずにはいられぬだろう。

問 少し分つてきたようですね。じゃあお話しして頂くわ。まず思想のことから。それが済んだら実行のこと。もしまたそれに準備というものが要ならそのことも委しく。

答 あなたはさつき思想なんかむずかしい、それを知るには書物を読んだり、考えたりしなければならぬだろうといわれた。だが、そういうむずかしい学問的思想でなければ思想でないと考えるのは、ブルジョアやマルキストのような強権主義者のことであつて、我々の思想は無学者であればあるほどかえつて把握することのできる簡単な、だが、それだけゴマ化しのきかない嚴肅な思想である。私はいまそのことを十分にお話してみよう。も

し不審のところが出てきたら、遠慮なく質問してください。では……。

(二)

問 わたしからたずねさせて下さい。というのは、あまりむずかしいことをいい出されると、わからなくなるからです。で、わたしのたずねたいのは、なぜボルだのアナだのつて、めんどろなものがあるかということです。

答 なるほどね、だがそれはこういふのと同じです。なぜ政府だの人民だのつてもものがあるか……。

問 政府だの人民だの？ ふうん、じゃあこうだわね。ボルは政府を持ちつづけようとする、アナは政府を覆そうとするつてね。ふうん、じゃあわたしなんかはアナだね。あのうつとうしい××(十九字削除)××、どんなに明るくなるだろう。これはなるほど無学者にはいちばん分りやすいことだ。わたしの兄弟も、みんなそんなことなら知つてらア。彼等はいふのです。「おれ達百姓が、誰からも支配されずに生きて行けたらどんなに愉快だろうね。実際おれ達百姓はお上のお世話にならずに生きて行けるのだ。そんなに着物とか、道具とかはどうするときく奴があれば俺たちはいつてやる。そんなものは今でこそわるい仕組みの社会だから、俺たち以外のものが作つて、俺たちへ減法高い値段で売りつけ

答 無政府主義そのものは無支配ということ、すなわち自治ということで、新も無ければ旧もない。然し、その手段とか理解の方法とかに時代によつて種々の流れが形づくられる。ここに新といったのは、今日の（ことに日本の）無政府主義者達が一般に到達していると考えられる立場を言ったのです。このことについてはまたこの次に話しましょう。

(三)

問 話の腰を折るようですが、一寸だけ別のことを聞かせて下さい。それはこうです。きのうの朝、お隣りの村で、変ったことがおきたんです。地主が殺された事件。で、あなたはどんなふうにお考えでしょう。それをお聞きたいと思うの。

答 地主が殺された、なるほどそんな事件はこの頃よくありますね。仕方のないことでしょう。

問 仕方のない？ あなたはそんなふうにお思いですか。すすんで殺せとはあなたはいわないのですか。

答 それは言いません。むしろわたしは殺すなと言います。わたしの友人が昨夜山形から出てきて、色々な話をして行きましたが、彼は小作人の子で、彼の村は、今すつかり税金を不納しているために、戸毎に競売に付されていると言います。それでもいくら競売に

付しても、買手というものが全くない。それは第一には買うだけの資力がないのと、第二にはそういうことをすることを村でははばかるのですね。つまり村の道德、相互扶助的の道德は、法律やその他のお上の力よりも強い。そしてこの道德が村長とか地主とかをさえも支配する。村長が自ら立つて税金不納の運動を起す一方、地主は小作料を取り立てることをはばかる。村では困窮のどん底におちているものを中心とする相互扶助的の道德の力が、いかに強いかということをお話するものである。

問 道德？ そうするとわれわれを支配するものは相互扶助の道德であつて、階級意識ではないということになるんですね。

答 そうです。そこに無政府主義者と、マルクス主義者との相違があります。無政府主義者は、小作人だろうと、地主だろうと、資本家だろうと、商人だろうと、すべての人間に、一致点のあることを、認めている。（もちろん職業には一致点はない。だから無政府主義者は、罪はそうした分裂した職業すなわち分業制度にあるといっている）その証拠には、「自治社会が正しいか、強権社会が正しいか」ということを、彼等のすべてに向つてたずねる。そうすると一人として強権主義を正しいというものはない。アナキズムの思想は、この点で、もう全く成功しているといつてよい。真理というものが、かくの如く、諸階級を一貫して把握されているということは、これこそ宿命的、絶対的の、アナキズムの勝利の前ぶれである。そこでわれわれは、この真理を、あくまでもおし強めて行かねばな

らない。

問 おし強める場合に、それに反対する者を殺したりすることになるのも、必然のようですね。

答 おおそうです。さつき「仕方ないことだろう」といったのはそれです。しかし、お聞きなさい。ボルの人達は何かことがあるとしきりに「煽動」します。騒動をおこさせる。それは決して、われわれのためを思つてそうするのではなく、自分達少数者が、権力を握りたいためにすることだということを見抜かねばならない。ゲーテはこういつた。衆人は一生を通じて馬鹿だと。この言葉は、衆人というものが、じきに煽動にのつて、お利口な権力屋のだしに使われることを、齒がゆく思つていつたことです。

問 ああそういうえば、隣り村の地主殺しも彼等の策謀であつたそうです。彼等は小作人をつかつてそういうことをさせて、多くの小作人を牢に打ち込み、自分自身はいち早く逃げてしまつて何食わぬ顔をしています。彼等は「蜂起せよ！」というスローガンをかけ、無理にも血まみれの騒ぎを起し、ソビエトロシアの庇護のもとに天下をとろうというのですね。

答 そうです。その強い個人的欲望が、彼等を駆り立てています。また中には、そうすることが正しいことだとさえ、誤つて考へているもののあるのは気の毒なことです。それから中にはまた、ボルとブルジョア・スパイといつしよになつて煽てあげることがある。

14.

ボルはいい加減煽ててブルジョア・スパイに売り渡す。するとスパイは待つてましたとばかり、かねてから折があればとねらつていたところの「不良分子」を一網打尽にする。有名な××事件ですらもスパイが煽てて起したものだと言はれてゐるほどです。とにかくあまり威勢のいいことをいう者の口車には、決してうかとのつてはならない。ではこの際どうするかというと、あくまでも彼等とは逆の立場をとる。というのは、つまり、この未曾有の不景氣時代を彼等が陰謀のために役立てるならば、我々は自主のために役立てねばならない。彼等といつしよになつて「蜂起せよ！」なんて騒ぎ立てることは、むしろ彼等のために働いてやるようなものです。もつともこのことは都会では考えられないことです。従つて都会での運動はこのさき、ますます破壊的になるでしょう。それは都会的の運動のもつ必然の過程です。だが都会が破壊的であればあるほど、村は反対に建設的でなければならぬ。我々のしなければならぬことは相互扶助的の道德の強化（暴力万能の今日の社会にあつては、それに対する自衛的方法のことも考えねばなるまい）と、自給自足の經濟への自覚とでなくてはならない。（彼等が慢然たる蜂起を説くとき、我々は農民自身の自治の希望と自覚とをはつきり沈潜的に強めて行くこと）農家の主要な副業であつた養蚕業は、今後は没落するばかりでしょう。人絹の進出と、各国養蚕（イタリー、支那、アメリカ等）の抬頭とは、我國養蚕をこれまでのような無競争状態におくことをできなくします。農民の状態は、段々わるくなる一方でしょう。いま、方々の村では、肥料や醬油の自

家製造講習会などがあるそうですが、こんな自給自足的の講習会なんか、困ってくれば追々と一層必要になりましょう。なぜなら、農民はどんなに困っても、自分の作る米をばなさずに握ってさえおれば生きて行くことだけできる。またそれには品物を町から買うということはさし控えねばならない。そして自分達のところで手作りして間に合わせるようにしなければならぬ。そしてこの自給自足の生活を今後は自然発生的ではなく、無政府共産主義にもとづく自覚によつておしすすめて行かなければならない。かくて農村のその要求が、新機械の発明を促す等の動機になることもある。

問 じゃあ、どんな血まみれ騒ぎの時にも、例えば外国との戦争というような時にも、農民はこれまでのように、いつしよになつて騒ぎ立てたりなんかするのでしょうか。

答 農民は食物を生産することが出来ます。農民の強さはそこにあります。決して戦闘とか、喧嘩とかは、農民の強さではない。それは農民にかゝつて多くの犠牲者を出し、農民を個々に分裂させ、その隙に乗じて、権力屋を乗り込ませることになる。だから、戦争とか、革命とかの場合にも、農民は自分たちの立場を固く守つて、自分自身の生活にと固まるがよい。その場合、それに対する諸々の権力主義者の掠奪に対してこそは頑強に戦わねばならない。農民の戦いはこの意味の戦いでなければならぬ。都市権力のそのかしのものと戦うというようなことは農民の戦いではない。(もつとも支配者は警察とか、軍隊の力で迫ってくる。だが警官も、軍人もその大部分は農民ではないか。だから農民は、

何よりも徹底自治の意識を自己階級の全部にあます所なく込みこませることを急がねばならない) また都会にいる労働者とか、その他すべての自覚した人は、農民への復帰(彼等は今も歴史的に見ると、農民から出て、あらゆる立場へ分散したのだから、将来はまた農民へ復帰しなければならぬ)ということをやいまから考えその自覚にもとづいて都会においてのあらゆる立場からの戦いを戦わねばならない。戦い終つたら彼等は荒廃した都会を捨て農村へと帰る。すると農民は彼等を喜びに満ちて抱き迎えるであらう。ここで農民というのは、食物生産者ということである。従来の経済は金を中心としていた。即ちもうけるとか、蓄めるとかいうことが経済の中心だった。その社会は資本主義を最後として、長い罪惡の歴史を終らねばならない。そして今や消費を中心とする経済が始まる。その時、消費の中心が、「食う」ということであることは、あまりにも明らかなことです。そしてその「食う」ものを生産するものは農民です。即ちわれわれ農民である時にのみ、ほんとうに自治自主であることができるのです。

問 でも、もし空中から食物を生産するような場合はどうでしょう。

答 それはいつのことか分らない。果して可能かどうかとも分らない。だからそういうことは予定の中に入れることはできない。また一歩ゆずつて、それを予定の中に入れて考えて見ても、そうした生産そのものは、やはり一種の「農」であることに変わりはない。即ち「食物生産」であることに変わりはない。ただ土からと、空からとの違いがあるだけです。

いずれにしても「食物生産」が経済の中心となった時こそは、もはやいままでのような強権の社会はあり得ないのです。だから我々自治自主の社会をめがけるものが、農を中心として考えることは当然であり、それを擱んだ時に、それがまた、色々な形への発展となっていくことも考えられます。

問 そうすると、共産的無政府主義の社会の彼方には、個人的無政府主義の社会が希望されるようになるかも知れませんね。

答 これは驚いた。あなたは中々考えていられる。それはそうなるのが順序かも知れませんが、ともあれ、我々は自由を、自由を、無限の自由を求めて行くのですから。そして我々のそんな欲望は、物質的建設の世界から、精神的創造の世界への飛躍過程に伴うものです。だが、話がずいぶん夢のようなことになってしまいました。

問 きょうは私がわるかったです。せつかく、新無政府主義のお話を約束して下すつたのに、色々なことをお聞きしてしまいました。

答 いいえ、構いません。そのかわり、私のお答えも、まとまりのない、即興的のものになってしまいました。ではこの次に埋め合わせしましょう。